令和6年第2回臨時会

天栄村議会会議録

令和6年4月3日 開会

令和6年4月3日 閉会

天栄村議会

令和6年第2回天栄村議会臨時会会議録目次

第1号（4月3日）

議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
出席議員	1
欠席議員	2
地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	2
職務のため出席した者の職氏名	2
臨時議長あいさつ	3
開会の宣告	3
村長議会招集あいさつ	3
議事日程の報告	4
仮議席の指定	4
議長の選挙	4
議長就任あいさつ	5
日程の追加	6
議席の指定	6
会議録署名議員の指名	7
会期の決定	7
副議長の選挙	7
副議長就任あいさつ	8
日程の追加	9
議席の一部変更について	9
常任委員の選任について	10
正副常任委員長の選任について	11
議会運営委員の選任について	12
正副議会運営委員長の選任について	12
須賀川地方広域消防組合議会議員選挙	13
須賀川地方保健環境組合議会議員選挙	14
公立岩瀬病院企業団議会議員補欠選挙	16
議案第1号の上程、説明、質疑、討論、採決	17
議案第2号の上程、説明、質疑、討論、採決	29

議案第 3 号の上程、説明、質疑、討論、採決	3 1
日程の追加	3 2
議案第 4 号の上程、説明、質疑、採決	3 2
各委員会閉会中の継続審査申出	3 4
招集者あいさつ	3 6
閉会の宣告	3 7

第 2 回 臨 時 村 議 会

(第 1 号)

令和6年第2回天栄村議会臨時会

議事日程（第1号）

令和6年4月3日（水曜日）午前10時開会

日程第 1 仮議席の指定

日程第 2 選挙第1号 議長選挙

日程第 1 議席の指定

日程第 2 会議録署名議員の指名

日程第 3 会期の決定

日程第 4 選挙第2号 副議長選挙

日程第 5 常任委員の選任

日程第 6 議会運営委員の選任

日程第 7 選挙第3号 須賀川地方広域消防組合議会議員選挙

日程第 8 選挙第4号 須賀川地方保健環境組合議会議員選挙

日程第 9 選挙第5号 公立岩瀬病院企業団議会議員補欠選挙

日程第10 議案第1号 専決処分の報告及び承認について

日程第11 議案第2号 専決処分の報告及び承認について

日程第12 議案第3号 令和6年度天栄村一般会計補正予算について

日程第13 議席の一部変更について

日程第14 議案第4号 監査委員の選任につき同意を求めることについて

日程第15 各委員会閉会中の継続審査申出

招集者あいさつ

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（9名）

1番	齋藤	寿昭	君	2番	石塚	喜吉	君
3番	吉成	邦市	君	4番	馬場	吉信	君
5番	大浦	トキ子	君	6番	服部	晃	君

7番 小山 克彦 君 9番 円谷 要 君
 10番 大須賀 溪仁 君
 欠席議員（1名）
 8番 熊田 喜八 君

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

村 長	添 田 勝 幸 君	副 村 長	揚 妻 浩 之 君
教 育 長	長 場 壮 夫 君	参 事 兼 総 務 課 長	小 山 富 美 夫 君
参 事 兼 企 画 政 策 課 長	熊 田 典 子 君	税 務 課 長 兼 会 計 者 管 理 者	塚 目 弘 昭 君
住 民 課 長	星 裕 治 君	健 康 福 祉 課 長	森 和 昭 君
産 業 課 長	芳 賀 信 弘 君	建 設 課 長	櫻 井 幸 治 君
湯 支 所 本 長	星 淳 君	教 育 課 長	関 根 文 則 君
生 涯 学 習 課 長	黒 澤 伸 一 君		

職務のため出席した者の職氏名

参 事 兼 議 会 事 務 局 長	北 畠 さ つ き	書 記	小 山 泰 明
書 記	渡 邊 久 美		

◎臨時議長あいさつ

〔参事兼議会事務局長 北嶋さつき君登壇〕

○参事兼議会事務局長（北嶋さつき君） おはようございます。

議会事務局長の北嶋さつきでございます。

本臨時会は天栄村議会議員一般選挙後初めての議会でありますので、議長が選挙されるまでの間、地方自治法第107条の規定により、出席議員の中で年長の議員が臨時に議長の職を行うこととなっております。

出席議員のうち、年長の議員は大浦トキ子議員でありますので、大浦トキ子議員に臨時議長をお願いいたします。大浦トキ子議員、議長席にご移動願います。

○臨時議長（大浦トキ子君） おはようございます。

ただいま事務局長よりご紹介いただきました大浦トキ子であります。

地方自治法第107条の規定により、臨時に議長の職務を行います。どうぞよろしく願いいたします。

◎開会の宣告

○臨時議長（大浦トキ子君） ただいまの出席議員は9名であります。

よって、定足数に達しておりますので、令和6年第2回天栄村議会臨時会は成立いたしました。

9番、熊田喜八君より、病気治療のため、欠席の届出がありました。

ただいまから、令和6年第2回天栄村議会臨時会を開会します。

（午前10時00分）

◎村長議会招集あいさつ

○臨時議長（大浦トキ子君） ここで、招集者であります村長から挨拶をお願いいたします。

村長、添田勝幸君。

〔村長 添田勝幸君登壇〕

○村長（添田勝幸君） おはようございます。

本日ここに令和6年天栄村議会第2回臨時会が開催されるに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

議員の皆様におかれましては、3月24日に執行された村議会議員一般選挙において当選の栄に浴され、本日、初の議会を開催する運びとなりましたことは、村政発展のため、誠に同慶に堪えないところであり、改めてお祝いを申し上げる次第であります。

さて、令和4年度を初年度とする第5次天栄村総合計画後期計画が3年目を迎えることから、村の将来像である「自然と共に 人・未来を創造する村 てんえい」の実現に向けて、5つの基本目標に沿った各種施策を村民の皆様との協働により、さらに推進していく必要があります。また、急激に進む人口減少や少子高齢化、物価高騰、さらには激甚化する自然災害への対策など、現下の社会経済情勢に対応した課題にも取り組まなければならない状況があります。こうした課題を一つ一つ解決しながら、村民が主役となり、誰一人取り残されない、未来に続く元気で豊かな村づくりに全力で取り組んでまいりますので、議員の皆様の特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、挨拶といたします。

○臨時議長（大浦トキ子君） これで村長の挨拶を終わります。

◎議事日程の報告

○臨時議長（大浦トキ子君） それでは、これより本日の会議を開きます。

本日の議事は、臨時議長において決めました議事日程第1号をもって進めます。

◎仮議席の指定

○臨時議長（大浦トキ子君） 日程第1、仮議席の指定を行います。

仮議席は、ただいまご着席の議席といたします。

◎議長の選挙

○臨時議長（大浦トキ子君） 日程第2、選挙第1号 議長選挙を行います。

お諮りいたします。

議長選挙につきましては、暫時休議し協議したいと思っております。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○臨時議長（大浦トキ子君） 異議なしと認めます。

これより暫時休議いたします。

(午前10時05分)

○臨時議長（大浦トキ子君） 休議前に引き続き再開いたします。

(午前10時12分)

○臨時議長（大浦トキ子君） これより議長選挙を行います。

お諮りいたします。

選挙の方法については、地方自治法第118条第2項の規定により、指名推選にしたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○臨時議長（大浦トキ子君） 異議なしと認めます。

よって選挙の方法は、指名推選で行うことに決定しました。

お諮りいたします。

指名の方法については、臨時議長が指名することにしたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○臨時議長（大浦トキ子君） 異議なしと認めます。

よって、臨時議長が指名することに決定しました。

それでは、議長に大須賀溪仁君を指名いたします。

お諮りいたします。

ただいま臨時議長が指名しました大須賀溪仁君を議長選挙の当選人と定めることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○臨時議長（大浦トキ子君） 異議なしと認めます。

よって、大須賀溪仁君が議長に当選されました。

◎議長就任あいさつ

○臨時議長（大浦トキ子君） ただいま議長に当選されました大須賀溪仁君が議場におられます。

本席から会議規則第33条第2項の規定により、当選の告知をします。

議長に当選されました大須賀溪仁君の議長当選の承諾及び挨拶をお願いいたします。

6番、大須賀溪仁君。

〔6番 大須賀溪仁君登壇〕

○6番（大須賀溪仁君） 一言ご挨拶申し上げます。

ただいまの議長選挙によりまして選出いただきました大須賀溪仁でございます。臨時議長より当選の告知をいただきましたので、謹んで承諾させていただきます。

また、このたびは議長という要職に就任させていただきまして、身に余る光栄に存じます。私、まだまだ未熟者でございますが、村政発展のため一生懸命努めてまいり所存です。議員の皆様におかれましては、今後ともご指導ご協力をお願いいたしまして、簡単ではございますが、議長就任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

- 臨時議長（大浦トキ子君） 以上をもちまして臨時議長の職務を全て終了しました。
ご協力ありがとうございました。
大須賀議長、議長席に着席を願います。
-

◎日程の追加

- 議長（大須賀溪仁君） 議長を交代いたします。ご協力をよろしくお願いいいたします。
お諮りいたします。
ここで議事日程第1号に追加すべき議案がございますので、この際これを日程に追加し、
議題といたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

- 議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。
よって、ただいま申し上げましたとおり日程に追加し、直ちに議題とすることに決定いたしました。
ここで、追加日程及び議案書を配付し、また、議員打合せのため暫時休議いたします。
(午前10時16分)
-

- 議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。
(午前10時26分)
-

- 議長（大須賀溪仁君） これよりの議事は、お手元に配付しました議事日程第1号（追加1）
をもって進めます。
日程に入るに先立ち、ご報告を申し上げます。
本臨時会に説明のため、地方自治法第121条の規定により、別添写しのとおり出席を要求
いたしました。
-

◎議席の指定

- 議長（大須賀溪仁君） 日程第1、議席の指定を行います。
議席は、会議規則第4条第1項の規定により議長において指名し、その内容はお手元に配
付した議席表のとおりです。
なお、議席の指定を事務局に朗読させます。
〔参事兼議会事務局長 北嶋さつき君登壇〕
○参事兼議会事務局長（北嶋さつき君） 議席の指定。
天栄村議会会議規則第4条第1項の規定により、議席を次のように指定するものとする。

令和6年4月3日提出

天栄村議会議員 大須賀 溪 仁

記

番号、氏名。

1 番	齋 藤 寿 昭	6 番	大 浦 トキ子
2 番	石 塚 喜 吉	7 番	服 部 晃
3 番	吉 成 邦 市	8 番	小 山 克 彦
4 番	馬 場 吉 信	9 番	熊 田 喜 八
5 番	円 谷 要	10 番	大須賀 溪 仁

以上です。

○議長（大須賀溪仁君） ただいま事務局長朗読のとおり議席を指定いたします。

ここで議席移動のため、暫時休議いたします。

(午前10時28分)

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

(午前10時29分)

◎会議録署名議員の指名

○議長（大須賀溪仁君） 日程第2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第120条の規定により、

1 番 齋 藤 寿 昭 君

2 番 石 塚 喜 吉 君

を指名いたします。

◎会期の決定

○議長（大須賀溪仁君） 日程第3、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

本臨時会の会期は本日1日限りといたしたいと思えます。これにご異議ございませんか。

[「異議なし」の声あり]

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、本臨時会の会期は本日1日限りと決定いたしました。

◎副議長の選挙

○議長（大須賀溪仁君） 日程第4、選挙第2号 副議長選挙を行います。

お諮りいたします。

副議長の選挙につきましては、暫時休議し協議したいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

これより暫時休議いたします。

（午前10時30分）

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

（午前10時38分）

○議長（大須賀溪仁君） これより副議長選挙を行います。

お諮りいたします。

選挙の方法については、地方自治法第118条第2項規定により、指名推選としたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は指名推選で行うことに決定しました。

お諮りいたします。

指名の方法については、議長が指名することにしたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、議長が指名することに決定いたしました。

それでは、副議長に円谷要君を指名いたします。

お諮りいたします。

ただいま議長が指名した円谷要君を副議長選挙の当選人と定めることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、円谷要君が副議長に当選されました。

◎副議長就任あいさつ

○議長（大須賀溪仁君） ただいま副議長に当選されました円谷要君が議場におられます。

本席から会議規則第33条第2項の規定により、当選の告知をします。
副議長に当選されました円谷要君の副議長当選の承諾及び挨拶をお願いします。
5番、円谷要君。

〔5番 円谷 要君登壇〕

○5番（円谷 要君） 一言ご挨拶を申し上げます。

ただいまの副議長選挙によりまして選出いただきました円谷要です。

議長より当選の告知をいただきましたので、謹んで承諾いたします。

また、このたび副議長という要職に就任させていただきまして、誠にありがとうございました。

私も、村政発展のために議長を補佐しながら一生懸命努めてまいりたいと思います。議員の皆様におかれましては、引き続きのご指導ご協力をお願いいたしまして、副議長就任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

◎日程の追加

○議長（大須賀溪仁君） お諮りいたします。

副議長の選挙に伴い、慣例により副議長の席は9番となりますので、会議規則第4条第3項の規定により、議席の一部変更についてを日程に追加し、日程第13として日程の順序を変更し、先に議題としたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、日程を一部変更することに決定しました。

追加日程を事務局に配付させますので、暫時休議いたします。

(午前10時41分)

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

(午前10時43分)

◎議席の一部変更について

○議長（大須賀溪仁君） 日程第13、議席の一部変更を行います。

変更になります議席番号、氏名を事務局に朗読させます。

〔参事兼議会事務局長 北嶋さつき君登壇〕

○参事兼議会事務局長（北嶋さつき君） 議席の一部変更について。

副議長選挙に伴い、天栄村議会会議規則第4条第3項の規定により、議席の一部を次のよ

うに変更するものとする。

令和6年4月3日提出

天栄村議会議長 大須賀 溪 仁

記

5番 円谷要議員の議席を9番に

6番 大浦トキ子議員の議席を5番に

7番 服部晃議員の議席を6番に

8番 小山克彦議員の議席を7番に

9番 熊田喜八議員の議席を8番にそれぞれ変更する。

○議長（大須賀溪仁君） ただいま事務局朗読のとおり議席を指定いたします。

ここで議席替えのため、暫時休議いたします。

(午前10時44分)

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

(午前10時45分)

◎常任委員の選任について

○議長（大須賀溪仁君） 日程第5、常任委員の選任を行います。

お諮りいたします。

常任委員の選任につきましては、暫時休議し、協議したいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

これより暫時休議いたします。

(午前10時45分)

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

(午前11時21分)

○議長（大須賀溪仁君） 各常任委員会の委員の選任につきましては、天栄村議会委員会条例第5条第2項の規定により、議長において指名します。

まず、総務常任委員に

1番 齋藤 寿 昭 君、

3番 吉成邦市君、
5番 大浦トキ子君、
7番 小山克彦君、
10番 大須賀溪仁、

次に、産業建設常任委員に

2番 石塚喜吉君、
4番 馬場吉信君、
6番 服部晃君、
8番 熊田喜八君、
9番 円谷要君、

次に、議会広報常任委員に

1番 齋藤寿昭君、
2番 石塚喜吉君、
3番 吉成邦市君、
4番 馬場吉信君、
9番 円谷要君、

をそれぞれ指名いたします。

お諮りいたします。

昼食のため、ここで1時30分まで休みます。

(午前 11時22分)

○議長（大須賀溪仁君） 午前中に引き続き再開いたします。

(午後 1時30分)

◎正副常任委員長の選任について

○議長（大須賀溪仁君） ここで、各常任委員会を開催していただき、正副委員長の互選を行い、議長まで報告願います。

暫時休議いたします。

(午後 1時30分)

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

(午後 1時30分)

○議長（大須賀溪仁君）　ここで、各常任委員会で互選をいただきました正副委員長をご報告いたします。

総務常任委員会委員長に吉成邦市君、副委員長に小山克彦君。

産業建設常任委員会委員長に円谷要君、副委員長に服部晃君。

議会広報常任委員会委員長に馬場吉信君、副委員長に石塚喜吉君。

以上であります。

これで報告を終わります。

◎議会運営委員の選任について

○議長（大須賀溪仁君）　日程第6、議会運営委員の選任を行います。

お諮りいたします。

議会運営委員の選任につきましては、暫時休議し、協議したいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君）　異議なしと認めます。

これより暫時休議いたします。

（午後　1時31分）

○議長（大須賀溪仁君）　休議前に引き続き再開いたします。

（午後　1時32分）

○議長（大須賀溪仁君）　議会運営委員の選任につきましては、天栄村議会委員会条例第5条第2項の規定により、議長において指名します。

議会運営委員に

3番 吉 成 邦 市 君、

4番 馬 場 吉 信 君、

6番 服 部 晃 君、

7番 小 山 克 彦 君、

9番 円 谷 要 君、

をそれぞれ指名いたします。

◎正副議会運営委員長の選任について

○議長（大須賀溪仁君）　ここで、議会運営委員会を開催していただき、正副委員長の互選を

行います。議長まで報告願います。

暫時休議いたします。

(午後 1時32分)

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

(午後 1時33分)

○議長（大須賀溪仁君） ここで、議会運営委員会で互選をいただきました正副委員長をご報告いたします。

議会運営委員会委員長に服部晃君、副委員長に小山克彦君。

以上であります。

これで報告を終わります。

◎須賀川地方広域消防組合議会議員選挙

○議長（大須賀溪仁君） 日程第7、選挙第3号 須賀川地方広域消防組合議会議員選挙を行います。

お諮りいたします。

この選挙の方法につきましては、暫時休議し、協議したいと思っております。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

これより暫時休議いたします。

(午後 1時33分)

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

(午後 1時47分)

○議長（大須賀溪仁君） これより須賀川地方広域消防組合議会議員選挙を行います。

お諮りいたします。

選挙の方法については、地方自治法第118条第2項規定により、指名推選にしたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は、指名推選で行うことに決定しました。

お諮りいたします。

指名の方法については、議長が指名することにしたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、議長が指名することに決定しました。

それでは、須賀川地方広域消防組合議会議員に石塚喜吉君を指名いたします。

お諮りいたします。

ただいま議長が指名しました石塚喜吉君を須賀川地方広域消防組合議会議員選挙の当選人と定めることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、石塚喜吉君が須賀川地方広域消防組合議会議員に当選されました。

ただいま当選されました石塚喜吉君が議場におられます。

本席から会議規則第33条第2項の規定により当選の告知をします。

ここで、当選されました石塚喜吉君の須賀川地方広域消防組合議会議員当選の承諾及び挨拶をお願いいたします。

2番、石塚喜吉君。

〔2番 石塚喜吉君登壇〕

○2番（石塚喜吉君） 一言ご挨拶申し上げます。

ただいまの須賀川地方広域消防組合議会議員選挙におきまして選出をいただきました石塚でございます。議長より当選の告知をいただきましたので、謹んで承諾させていただきます。

管内の消防行政の発展のため、誠心誠意この職を務めてまいる所存です。今後とも議員の皆様にはご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたしまして、就任の挨拶といたします。ありがとうございました。

◎須賀川地方保健環境組合議会議員選挙

○議長（大須賀溪仁君） 日程第8、選挙第4号 須賀川地方保健環境組合議会議員選挙を行います。

お諮りいたします。

この選挙の方法につきましては、暫時休議し、協議したいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

これより暫時休議いたします。

（午後 1時50分）

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

（午後 2時00分）

○議長（大須賀溪仁君） これより須賀川地方保健環境組合議会議員選挙を行います。

お諮りいたします。

選挙の方法については、地方自治法第118条第2項規定により、指名推選にしたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は指名推選で行うことに決定しました。

お諮りいたします。

指名の方法については議長が指名することにしたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、議長が指名することに決定しました。

それでは、須賀川地方保健環境組合議会議員に齋藤寿昭君を指名いたします。

お諮りいたします。

ただいま議長が指名しました齋藤寿昭君を須賀川地方保健環境組合議会議員選挙の当選人と定めることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、齋藤寿昭君が須賀川地方保健環境組合議会議員に当選されました。

ただいま当選されました齋藤寿昭君が議場におられます。

本席から会議規則第33条第2項の規定により、当選の告知をします。

ここで、当選されました齋藤寿昭君の須賀川地方保健環境組合議会議員当選の承諾及び挨拶をお願いいたします。

1番、齋藤寿昭君。

〔1番 齋藤寿昭君登壇〕

○1番（齋藤寿昭君） 一言ご挨拶申し上げます。

ただいまの須賀川地方保健環境組合議会議員選挙におきまして選出をいただきました齋藤でございます。議長より当選の告知をいただきましたので、謹んで承諾させていただきます。

保健環境組合は、管内の廃棄物やし尿処理、斎場の運営など、多岐にわたる分野を統括している組合であり、その中身は住民に直接関わるものばかりであり、その組合の議員として選出されたことは非常に身の引き締まる思いでございます。管内の発展のためにも一生懸命努力してまいる所存です。今後とも議員の皆様のご指導、ご協力をお願いいたしまして、就任の挨拶といたします。ありがとうございました。

◎公立岩瀬病院企業団議会議員補欠選挙

○議長（大須賀溪仁君） 日程第9、選挙第5号 公立岩瀬病院企業団議会議員補欠選挙を行います。

お諮りいたします。

この選挙の方法につきましては、暫時休議し、協議したいと思っております。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

これより暫時休議いたします。

（午後 2時03分）

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

（午後 2時03分）

○議長（大須賀溪仁君） これより公立岩瀬病院企業団議会議員補欠選挙を行います。

お諮りいたします。

選挙の方法については、地方自治法第118条第2項規定により、指名推選にしたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は指名推選で行うことに決定しました。

お諮りいたします。

指名の方法については議長が指名することにしたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、議長が指名することに決定しました。

それでは、公立岩瀬病院企業団議会議員に馬場吉信君を指名いたします。

お諮りいたします。

ただいま議長が指名しました馬場吉信君を公立岩瀬病院企業団議会議員補欠選挙の当選人と定めることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、馬場吉信君が公立岩瀬病院企業団議会議員に当選されました。

ただいま当選されました馬場吉信君が議場におられます。

本席から会議規則第33条第2項の規定により、当選の告知をします。

ここで、当選されました馬場吉信君の公立岩瀬病院企業団議会議員当選の承諾及び挨拶をお願いいたします。

4番、馬場吉信君。

〔4番 馬場吉信君登壇〕

○4番（馬場吉信君） それでは、一言ご挨拶申し上げます。

ただいまの公立岩瀬病院企業団議会議員の選挙により選出いただきました馬場でございます。議長より当選の告知をいただきましたので、謹んで承諾させていただきます。精いっぱい努力を致す所存であります。今後とも議員各位のご指導とご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

○議長（大須賀溪仁君） ここで暫時休議いたします。

（午後 2時06分）

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

（午後 2時20分）

◎議案第1号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大須賀溪仁君） 日程第10、議案第1号 専決処分の報告及び承認についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

税務課長、塚目弘昭君。

〔税務課長兼会計管理者 塚目弘昭君登壇〕

○税務課長兼会計管理者（塚目弘昭君） 議案第1号 専決処分の報告及び承認について。

地方自治法（昭和22年法律第67号）第179条第1項の規定により次のとおり専決処分した

ので、同条第3項の規定により報告し、承認を求める。

令和6年4月3日提出。天栄村長、添田勝幸。

記。

専決第1号 天栄村税条例等の一部を改正する条例の制定について。

専決第1号 天栄村税条例等の一部を改正する条例の制定について。

天栄村税条例の一部を改正する条例の制定について、別紙のとおり専決処分する。

令和6年3月31日、天栄村長、添田勝幸。

天栄村税条例の一部を改正する条例。

天栄村税条例（昭和30年天栄村条例第19号）の一部を次のように改正する。

第34条の7第1項中「若しくは金銭」を削り、同項第9号を次のように改める。

第9号 所得税法第78条第2項第4号に規定する公益信託の信託財産とするために支出した当該公益信託に係る信託事務に関連する寄附金。

第51条第2項中「によって」を「により」に改め、同項各号列記以外の部分に次のただし書を加える。

ただし、村長が、当該者が同項各号のいずれかに該当することが明らかであり、かつ、村民税を減免する必要があると認める場合は、この限りでない。

第51条第3項中「によって」を「により」に、「においては」を「には」に改める。

第56条中「第64条第4項」を「第152条第5項」に改める。

第71条第2項中「によって」を「により」に改め、同項各号列記以外の部分に次のただし書を加える。

ただし、村長が、当該者が所有する固定資産が同項各号のいずれか該当することが明らかであり、かつ、固定資産税を減免する必要があると認める場合は、この限りでない。

第71条第3項中「によって」を「により」に、「においては」を「には」に改める。

第139条の3第2項中「によって」を「により」に改め、同項各号列記以外の部分に次のただし書を加える。

ただし、村長が、当該者が所有し、又は取得する土地が同項各号のいずれか該当することが明らかであり、かつ、特別土地保有税を減免する必要があると認める場合は、この限りでない。

第139条の3第3項中「によって」を「により」に改める。

附則第4条の2を削る。

附則第5条の2を次のように改める。

（令和6年能登半島地震災害に係る雑損控除額等の特例）

第5条の2 所得割の納税義務者の選択により、法附則第4条の4第4項に規定する特例

損失金額（以下この項において「特例損失金額」という。）がある場合には、特例損失金額（同条第4項に規定する災害関連支出がある場合には、第3項に規定する申告書の提出の日の前日までに支出したものに限り。以下この項及び次項において「損失対象金額」という。）について、令和5年において生じた法第314条の2第1項第1号に規定する損失の金額として、この条例の規定を適用することができる。この場合において、第34条の2の規定により控除された金額に係る当該損失対象金額は、その者の令和7年度以後の年度分で当該損失対象金額が生じた年の末日の属する年度の翌年度分の村民税に係るこの条例の規定の適用については、当該損失対象金額が生じた年において生じなかったものとみなす。

第2項 前項前段の場合において、第34条の2の規定により控除された金額に係る損失対象金額のうち同項の規定の適用を受けた者と生計を一にする令第48条の6第1項に規定する親族の有する法附則第4条の4第4項に規定する資産について受けた損失の金額（以下この項において「親族資産損失額」という。）があるときは、当該親族資産損失額は、当該親族の令和7年度以後の年度分で当該親族資産損失額が生じた年の末日の属する年度の翌年度分の村民税に係るこの条例の規定の適用については、当該親族資産損失額が生じた年において生じなかったものとみなす。

第3項 第1項の規定は、令和6年度分の第36条の2第1項又は第4項の規定による申告書（その提出期限後において村民税の納税通知書が送達される時までに提出されたもの及びその時までに提出された第36条の3第1項の確定申告書を含む。）に第1項の規定の適用を受けようとする旨の記載がある場合（これらの申告書にその記載がないことについてやむを得ない理由があると村長が認める場合を含む。）に限り、適用する。

附則第6条中「附則第4条の4第3項」を「附則第4条の5第3項」に改める。

附則第7条の4の次に次の4条を加える。

（令和6年度分の個人の村民税の特別税額控除）

第7条の5 令和6年度分の個人の村民税に限り、法附則第5条の8第4項及び第5項に規定するところにより控除すべき村民税に係る令和6年度分特別税額控除額を、前年の合計所得金額が1,805万円以下である所得割の納税義務者（次条及び附則第7条の7において「特別税額控除対象納税義務者」という。）の第34条の3、第34条の6から第34条の9まで、附則第5条第2項、附則第7条第1項、附則第7条の3の2第1項、前条及び附則第9条の2の規定を適用した場合の所得割の額から控除する。

第2項 前項の規定の適用がある場合における第34条の7第2項、第47条の5第1項及び前条の規定の適用については、第34条の7第2項及び前条中「附則第5条の6第2項」とあるのは「附則第5条の6第2項及び第5条の8第6項」と、第47条の5第1項中「課した」とあるのは「附則第7条の5第1項の規定の適用がないものとした場合に課すべき」と、

「の前々年中」とあるのは「の同項の規定の適用がないものとした場合における前々年中」と、「前々年中」とあるのは「、附則第7条の5第1項の規定の適用がないものとした場合における前々年中」とする。

(令和6年度分の個人の村民税の納税通知書に関する特例)

第7条の6 令和6年度分の個人の村民税に限り、個人の村民税の納税通知書に記載すべき各納期の納付額については、第41条の規定にかかわらず、次に定めるところによる。

第1号 特別税額控除対象納税義務者の特別税額控除前の普通徴収に係る個人の村民税の額（前条第1項の規定の適用がないものとした場合に算出される普通徴収に係る個人の村民税の額をいう。）、特別税額控除前の普通徴収に係る個人の県民税の額（法附則第5条の8第1項及び第2項の規定の適用がないものとした場合に算出される普通徴収に係る個人の県民税の額をいう。）及び普通徴収に係る森林環境税の額の合算額（以下この号において「特別税額控除前の普通徴収に係る個人の住民税の額」という。）からその者の普通徴収に係る個人の村民税の額、普通徴収に係る個人の県民税の額及び普通徴収に係る森林環境税の額の合算額を控除した額（以下この項において「普通徴収の個人の住民税に係る特別税額控除額」という。）がその者の特別税額控除前の普通徴収に係る個人の住民税の額を4で除して得た金額（当該金額に1,000円未満の端数があるとき、又は当該金額の全額が1,000円未満であるときは、その端数金額又はその全額を切り捨てた金額。以下この項において「分割金額」という。）に3を乗じて得た金額をその者の特別税額控除前の普通徴収に係る個人の住民税の額から控除した残額に相当する金額（以下この項において「第1期分金額」という。）に満たない場合には、当該納税通知書に記載すべき各納期の納付額は、第40条第1項に規定する第1期の納期（以下この項、次項及び次条第1項において「第1期納期」という。）においてはその者の第1期分金額からその者の普通徴収の個人の住民税に係る特別税額控除額を控除した額とし、その他のそれぞれの納期においてはその者の分割金額とする。

第2号 特別税額控除対象納税義務者の普通徴収の個人の住民税に係る特別税額控除額がその者の第1期分金額以上であり、かつ、その者の第1期分金額とその者の分割金額との合計額に満たない場合は、当該納税通知書に記載すべき各納期の納付額は、第1期納期においてはしないものとし、第40条第1項に規定する第2期の納期（以下この項及び次条第1項において「第2期納期」という。）においてはその者の第1期分金額とその者の分割金額との合計額からその者の普通徴収の個人の住民税に係る特別税額控除額を控除した額とし、第40条第1項に規定する第3期の納期（以下この項において「第3期納期」という。）及び同条第1項に規定する第4期の納期（以下この項において「第4期納期」という。）においてはその者の分割金額とする。

第3号 特別税額控除対象納税義務者の普通徴収の個人の住民税に係る特別税額控除額が

その者の第1期分金額とその者の分割金額との合計額以上であり、かつ、その者の第1期分金額とその者の分割金額に2を乗じて得た金額との合計額に満たない場合には、当該納税通知書に記載すべき各納期の納付額は、第1期納期及び第2期納期においてはしないものとし、第3期納期においてはその者の第1期分金額とその者の分割金額に2を乗じて得た金額との合計額からその者の普通徴収の個人の住民税に係る特別税額控除額を控除した額とし、第4期納期においてはその者の分割金額とする。

第4号 特別税額控除対象納税義務者の普通徴収の個人の住民税に係る特別税額控除額がその者の第1期分金額とその者の分割金額に2を乗じて得た金額との合計額以上である場合には、当該納税通知書に記載すべき各納期の納付金額は、第1期納期、第2期納期及び第3期納期においてはしないものとし、第4期納期においてはその者の普通徴収に係る個人の村民税の額、普通徴収に係る個人の県民税の額及び普通徴収に係る森林環境税の額の合算額とする。

第2項 令和6年度分の個人の村民税（第1期納期から第47条第1項の規定により普通徴収の方法によって徴収されることとなったものを除く。）を同項の規定により普通徴収の方法によって徴収する場合については、前項の規定は、適用しない。

（令和6年度分の公的年金等に係る所得に係る個人の村民税に関する特例）

第7条の7 令和6年度分の個人の村民税に限り、第47条の2第1項の規定により特別徴収の方法によって徴収すべき公的年金等に係る所得に係る個人の村民税（第3項において「年金所得に係る特別徴収の個人の村民税」という。）の額及び同条第2項の規定により普通徴収の方法によって徴収すべき公的年金等に係る所得に係る個人の村民税の額については、次に定めるところによる。

第1号 特別税額控除対象納税義務者の特別税額控除前の年金所得に係る個人の村民税の額（附則第7条の5第1項の規定の適用がないものとした場合に算出される第47条の2第1項に規定する前年中の公的年金等に係る所得に係る所得割額及び均等割額（これと併せて賦課徴収を行う森林環境税額を含む。以下この号及び第5号において同じ。）の合算額（以下この号及び第5号において「年金所得に係る所得割額及び均等割額の合算額」という。）をいう。以下、この号及び第3項第1号において同じ。）からその者の年金所得に係る所得割額及び均等割額の合算額を控除した額（以下この項及び第3項において「年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除額」という。）がその者の特別税額控除前の普通徴収に係る個人の村民税の額（特別税額控除前の年金所得に係る個人の村民税の額から特別税額控除前の特別徴収に係る個人の村民税の額（特別税額控除前の年金所得に係る個人の村民税の額の2分の1に相当する額をいう。以下この号において同じ。）を控除した額をいう。以下この号において同じ。）を2で除して得た金額（当該金額に1,000円未満の端数があるとき、又は当該金額の全額が1,000円未満であるときは、その端数金額又はその全額を切り捨てた金

額。以下この項において「第2期分金額」という。)をその者の特別税額控除前の普通徴収に係る個人の住民税の額から控除した残額に相当する金額(以下この項において「第1期分金額」という。)に満たない場合には、第1期納期及び第2期納期に普通徴収の方法によって徴収すべき公的年金等に係る所得に係る個人の村民税の額(以下この項において「普通徴収対象税額」という。)並びに第47条の3に規定する特別徴収対象年金給付の支払をする際、特別徴収の方法によって徴収すべき公的年金等に係る所得に係る個人の村民税の額(以下この項及び第3項において「特別徴収対象税額」という。)は、第1期納期においてはその者の第1期分金額からその者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除額を控除した残額に相当する税額、第2期納期においてはその者の第2期分金額に相当する税額、当該年度の初日の属する年の10月1日から11月30日までの間においてはその者の特別税額控除前の特別徴収に係る個人の村民税の額を3で除して得た金額(当該金額に100円未満の端数があるとき、又は当該金額の全額が100円未満であるときは、その端数金額又はその全額を切捨てた金額。以下この項において「分割金額」という。)に2を乗じて得た金額をその者の特別税額控除前の特別徴収に係る個人の村民税の額から控除した残額に相当する金額(以下この項において「10月分金額」という。)に相当する税額、同年12月1日から翌年の3月31日までの間においてはその者の分割金額に相当する税額とする。

第2号 特別税額控除対象納税義務者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除額がその者の第1期分金額以上であり、かつ、その者の第1期分金額とその者の第2期分金額との合計額に満たない場合には、普通徴収対象税額及び特別徴収対象税額は、第1期納期における税額はないものとし、第2期納期においてはその者の第1期分金額とその者の第2期分金額との合計額からその者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除後控除した残額に相当する税額、当該年度の初日の属する年の10月1日から11月30日までの間においてはその者の10月分金額に相当する税額、同年12月1日から翌年の3月31日までの間においてはその者の分割金額に相当する税額とする。

第3号 特別税額控除対象納税義務者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除額がその者の第1期分金額とその者の第2期分金額との合計額以上であり、かつ、その者の第1期分金額、その者の第2期分金額及びその者の10月分金額の合計額に満たない場合には、普通徴収対象税額及び特別徴収対象税額は、第1期納期及び第2期納期における税額はないものとし、当該年度の初日の属する年の10月1日から11月30日までの間においてはその者の第1期分金額、その者の第2期分金額及びその者の10月分金額の合計額からその者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除を控除した残額に相当する税額、同年12月1日から翌年の3月31日までの間においては、その者の分割金額に相当する税額とする。

第4号 特別税額控除対象納税義務者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除

額がその者の第1期分金額、その者の第2期分金額及びその者の10月分金額の合計額以上であり、かつ、その者の第1期分金額、その者の第2期分金額、その者の10月分金額及びその者の分割金額の合計額に満たない場合には、普通徴収対象税額及び特別徴収対象税額は、第1期納期及び第2期納期並びに当該年度の初日の属する年の10月1日から11月30日までの間における税額はないものとし、同年12月1日から翌年の1月31日までの間においてはその者の第1期分金額、その者の第2期分金額、その者の10月分金額及びその者の分割金額の合計額からその者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除額を控除した残額に相当する税額、同年2月1日から3月31日までの間においてはその者の分割金額に相当する税額とする。

第5号 特別税額控除対象納税義務者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除額がその者の第1期分金額、その者の第2期分金額、その者の10月分金額及びその者の分割金額の合計額以上である場合には、普通徴収対象税額及び特別徴収対象税額は、第1期納期及び第2期納期並びに当該年度の初日の属する年の10月1日から翌年の1月31日までの間における税額はないものとし、同年2月1日から3月31日までの間においてはその者の年金所得に係る所得割額及び均等割額の合算額に相当する税額とする。

第2項 前項の規定の適用がある場合における第47条の4の規定の適用については、同条第2項中「年金所得に係る特別徴収税額を当該年度の初日の属する年の10月1日から翌年の3月31日までの間における当該特別徴収対象年金所得者に係る特別徴収対象年金給付の支払の回数で除して得た額」とあるのは、「附則第7条の7第1項各号に規定する特別徴収の方法によって徴収すべき額」とする。

第3項 令和6年度分の個人の村民税に限り、年金所得に係る特別徴収の個人の村民税の額（第1項の規定の適用があるものを除く。）については、次に定めるところによる。

第1号 特別税額控除対象納税義務者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除額がその者の特別税額控除前の特別徴収に係る個人の村民税の額（特別税額控除前の年金所得に係る個人の村民税の額から第47条の5第1項に規定する年金所得に係る仮特別徴収税額を控除した額をいう。以下この号において同じ）を3で除して得た金額（当該金額に100円未満の端数があるとき、又は当該金額の全額が100円未満であるときは、その端数金額又はその全額を切り捨てた金額。以下この項において「分割金額」という。）に2を乗じて得た金額をその者の特別税額控除前の特別徴収に係る個人の村民税の額から控除した残額に相当する金額（以下この項において「10月分金額」という。）に満たない場合には、特別徴収対象税額は、当該年度の初日の属する年の10月1日から11月30日までの間においてはその者の10月分金額からその者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除額を控除した残額に相当する税額、同年12月1日から翌年の3月31日までの間においてはその者の分割金額に

相当する税額とする。

第2号 特別税額控除対象納税義務者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除額がその者の10月分金額以上であり、かつ、その者の10月分金額とその者の分割金額との合計額に満たない場合には、特別徴収対象税額は、当該年度の初日の属する年の10月1日から11月30日までの間における税額はないものとし、同年12月1日から翌年の1月31日までの間においてはその者の10月分金額とその者の分割金額との合計額からその者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除額を控除した残額に相当する税額、同年2月1日から3月31日までの間においてはその者の分割金額に相当する税額とする。

第3号 特別税額控除対象納税義務者の年金所得に係る個人の村民税に係る特別税額控除額がその者の10月分金額とその者の分割金額との合計額以上である場合には、特別徴収対象税額は、当該年度の初日の属する年の10月1日から翌年の1月31日までの間における税額はないものとし、同年2月1日から3月31日までの間においてはその者の第47条の5第2項の規定により読み替えられた第47条の2第1項に規定する年金所得に係る特別徴収税額に相当する税額とする。

第4項 前項の規定の適用がある場合における第47条の4の規定の適用については、同条第2項中「年金所得に係る特別徴収税額を当該年度の初日の属する年の10月1日から翌年の3月31日までの間における当該特別徴収対象年金所得者に係る特別徴収対象年金給付の支払の回数で除して得た額」とあるのは、「附則第7条の7第3項各号に規定する特別徴収の方法によって徴収すべき額」とする。

第5項 令和6年度分の個人の村民税につき第47条の6第1項の規定の適用がある場合については、前各項の規定は、適用しない。

(令和7年度分の個人の村民税の特別税額控除)

第7条の8 令和7年度分の個人の村民税に限り、法附則第5条の12第3項及び第4項に規定するところにより控除すべき村民税に係る令和7年度分特別税額控除額を、同条第3項に規定する特別税額控除対象納税義務者の第34条の3、第34条の6から第34条の9まで、附則第5条第2項、附則第7条第1項、附則第7条の3の2第1項、附則第7条の4及び附則第9条の2の規定を適用した場合の所得割の額から控除する。

附則第8条第2項中「前条」を「附則第7条の4」に改め、同条第3項中「第34条の9第1項」の下に「、附則第7条の5第1項及び前条」を加え、「同項中」を「第34条の9第1項中」に、「とあるのは、」を「とあるのは」に、「とする」を「と、附則第7条の5第1項中「前条及び」とあるのは「前条、附則第8条第2項及び」と、前条中「附則第7条の4及び」とあるのは「附則第7条の4、次条第2項及び」とする」に改める。

附則第10条の3第13項を同条第14項とし、同条第12項中「附則第7条第17項」を「附則第

7条第18項」に改め、同項を同条第13項とし、同条第11項中「附則第7条第11項各号」を「附則第7条第12項各号」に改め、同項を同条第12項とし、同条第10項中「附則第7条第10項各号に規定する」を「附則第7条第11項各号に掲げる」に改め、同項を同条第11項とし、同条第9項中「附則第7条第9項各号」を「附則第7条第10項各号」に改め、同項を同条第10項とし、同条第8項中「附則第7条第8項各号」を「附則第7条第9項各号」に改め、同項を同条第9項とし、同条中第7項を第8項とし、第3項から第6項までを1項ずつ繰り下げ、第2項の次に次の1項を加える。

第3項 村長は、法附則第15条の7第1項又は第2項の認定長期優良住民のうち区分所有に係る住宅については、前項の申告書の提出がなかった場合においても、長期優良住宅の普及の促進に関する法律（平成20年法律第87号）第5条第4項に規定する管理者等から、法附則第15条の7第3項に規定する期間内に施行規則附則第7条第4項に規定する書類の提出がされ、かつ、当該区分所有に係る住宅が法附則第15条の7第1項又は第2項に規定する要件に該当すると認められるときは、前項の規定にかかわらず、同条第1項又は第2項の規定を適用することができる。

附則第11条の見出し中「令和3年度から令和5年度まで」を「令和6年度から令和8年度まで」に改める。

附則第11条の2の見出し中「令和4年度又は令和5年度」を「令和7年度又は令和8年度」に改め、同条第1項中「令和4年度分又は令和5年度分」を「令和7年度分又は令和8年度分」に改め、同条第2項中「令和4年度適用土地又は令和4年度類似適用土地」を「令和7年適用土地又は令和7年度類似適用土地」に、「令和5年度分」を「令和8年度分」に改める。

附則第12条の見出し中「令和3年度から令和5年度まで」を「令和6年度から令和8年度まで」に改め、同条第1項中「令和3年度から令和5年度まで」を「令和6年度から令和8年度まで」に改め、「（商業地等に係る令和4年度分の固定資産税にあつては、100分の2.5）」及び「（令和3年度分の固定資産税にあつては、前年度分の固定資産税の課税標準額）」を削り、同条第2項及び第3項中「令和4年度分及び令和5年度分」を「令和6年度から令和8年度までの各年度分」に改め、同条第4項及び第5項中「令和3年度から令和5年度まで」を「令和6年度から令和8年度まで」に改める。

附則第13条の見出し中「令和3年度から令和5年度まで」を「令和6年度から令和8年度まで」に改め、同条中「令和3年度から令和5年度まで」を「令和6年度から令和8年度まで」に改め、「。以下この項において同じ。」及び「（令和3年度分の固定資産税にあつては、前年度分の固定資産税の課税標準額）」を削る。

附則第15条第1項中「令和3年度から令和5年度まで」を「令和6年度から令和8年度ま

で」に改め、同条第2項中「令和6年3月31日」を「令和9年3月31日」に改める。

附則第16条の3第3項に次の1号を加える。

第5号 附則第7条の5及び附則第7条の8の規定の適用については、附則第7条の5第1項及び附則第7条の8中「所得割の額」とあるのは、「所得割の額並びに附則第16条の3第1項の規定による村民税の所得割の額」とする。

附則第16の4第3項に次の1号を加える。

第5号 附則第7条の5及び附則第7条の8の規定の適用については、附則第7条の5第1項及び附則第7条の8中「所得割の額」とあるのは、「所得割の額並びに附則第16条の4第1項の規定による村民税の所得割の額」とする。

附則第17条第3項に次の1号を加える。

第5号 附則第7条の5及び附則第7条の8の規定の適用については、附則第7条の5第1項及び附則第7条の8中「所得割の額」とあるのは、「所得割の額並びに附則第17条第1項の規定による村民税の所得割の額」とする。

附則第18条第5項に次の1号を加える。

第5号 附則第7条の5及び附則第7条の8の規定の適用については、附則第7条の5第1項及び附則第7条の8中「所得割の額」とあるのは、「所得割の額並びに附則第18条第1項の規定による村民税の所得割の額」とする。

附則第19条第2項に次の1号を加える。

第5号 附則第7条の5及び附則第7条の8の規定の適用については、附則第7条の5第1項及び附則第7条の8中「所得割の額」とあるのは、「所得割の額並びに附則第19条第1項の規定による村民税の所得割の額」とする。

附則第20条第2項に次の1号を加える。

第5号 附則第7条の5及び附則第7条の8の規定の適用については、附則第7条の5第1項及び附則第7条の8中「所得割の額」とあるのは、「所得割の額並びに附則第20条第1項の規定による村民税の所得割の額」とする。

附則第20条の2第2項に次の1号を加える。

第5号 附則第7条の5及び附則第7条の8の規定の適用については、附則第7条の5第1項及び附則第7条の8中「所得割の額」とあるのは、「所得割の額並びに附則第20条の2第1項の規定による村民税の所得割の額」とする。

附則第20条の2第5項に次の1号を加える。

第5号 附則第7条の5及び附則第7条の8の規定の適用については、附則第7条の5第1項及び附則第7条の8中「所得割の額」とあるのは、「所得割の額並びに附則第20条の2第3項後段の規定による村民税の所得割の額」とする。

附則第20条の3第2項に次の1号を加える。

第5号 附則第7条の5及び附則第7条の8の規定の適用については、附則第7条の5第1項及び附則第7条の8中「所得割の額」とあるのは、「所得割の額並びに附則第20条の3第1項の規定による村民税の所得割の額」とする。

附則第20条の3第5項に次の1号を加える。

第5号 附則第7条の5及び附則第7条の8の規定の適用については、附則第7条の5第1項及び附則第7条の8中「所得割の額」とあるのは、「所得割の額並びに附則第20条の3第3項後段の規定による村民税の所得割の額」とする。

附則。

(施行期日)

第1条 この条例は、令和6年4月1日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

第1号 第56条の改正規定、令和7年4月1日。

第2号 第34条の7第1項の改正規定、附則第4条の2を削る改正規定及び次条の規定、公益信託に関する法律（令和6年法律第 号）の施行の日の属する年の翌年の1月1日。

(村民税に関する経過措置)

第2条 所得税法等の一部を改正する法律（令和6年法律第8号）附則第3条第1項の規定の適用がある場合における前条第2号に掲げる規定による改正後の村税条例第34条の7第1項（第9号に係る部分に限る。）の規定の適用については、同項第9号中「寄附金」とあるのは、「寄附金（所得税法等の一部を改正する法律（令和6年法律第8号）附則第3条第1項の規定によりなおその効力を有するものとされる同法第1条の規定による改正前の所得税法第78条第3項の規定により特定寄附金とみなされるものを含む。）」とする。

(固定資産税に関する経過措置)

第3条 別段の定めがあるものを除き、この条例による改正後の村税条例の規定中固定資産税に関する部分は、令和6年度以後の年度分の固定資産税について適用し、令和5年度分までの固定資産税については、なお従前の例による。

提案理由をご説明申し上げます。

お手元の資料、専決第1号説明資料をご覧ください。

今回の改正は、地方税法等の一部を改正する法律、地方税法施行令等の一部を改正する政令及び地方税法施行規則等の一部を改正する省令が令和6年3月30日に公布、令和6年4月1日に施行されることに伴い、村税条例について、条文構成及び条文の変更のほか、令和6年能登半島地震災害の被災者に係る所得税等の特別措置や令和6年度分の個人住民税の特別税額控除に係る規定の新設等、所要の改正について、令和6年3月31日に専決処分したもの

であります。

新旧対照表にて、主立ったものについてご説明申し上げます。

第34条の7第1項につきましては、寄附金税額控除の公益信託の見直しに伴う規定の改正であります。

第51条、村民税の減免、次ページ、第71条、固定資産税の減免、第139条の3、特別土地保有税の減免につきましては、職権による減免を可能とする規定の追加であります。

次のページをお願いいたします。

附則第5条の2につきましては、令和6年能登半島地震災害の被災者に係る所得税法及び災害被害者に対する租税の減免、徴収猶予等に関する法律の臨時特例に関する法律により、令和6年能登半島地震災害に係る雑損控除額等の特例措置を新設するものであります。

附則第7条の5、附則第7条の6、次ページ、第7条の7につきましては、令和6年度分の個人住民税の特別税額控除に係る規定を新設するものであります。特別控除の額は、納税者本人1万円、控除対象配偶者または扶養親族1人につき1万円を個人住民税の所得割から控除するものであります。

10ページをお願いいたします。

附則第7条の8につきましては、令和7年度分の個人住民税の特別税額控除に係る規定を新設するものであります。

附則第10条の3第3項につきましては、認定長期優良住宅に係る特例について、申告書の提出がない場合でも、一定の要件に該当すると認められる場合には特例を適用できることとする規定の新設であります。第4項以降におきましては、第3項の規定の新設に伴い項ずれの改正であります。

附則第11条、附則第11条の2、附則第12条、次ページ、附則第13条につきましては、固定資産税の特例に係る年度の更新であります。

附則第15条につきましては、特別土地保有税の特例に係る年度の更新であります。

附則第16条の3から17ページまでの附則第20条の3までにつきましては、特別税額控除の対象となる所得割の額について、それぞれの所得等の分離課税分の個人住民税の所得割の額を含める読み替え規定の追加であります。

説明は以上であります。ご審議の上、ご承認を賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（大須賀溪仁君） 説明が終わりましたので、質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 討論なしと認めます。

これをもって討論を終わります。

これから採決を行います。

本件は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、本件は原案のとおり承認されました。

ここで暫時休議します。

（午後 3時05分）

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

（午後 3時15分）

◎議案第2号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大須賀溪仁君） 日程第11、議案第2号 専決処分の報告及び承認についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

税務課長、塚目弘昭君。

〔税務課長兼会計管理者 塚目弘昭君登壇〕

○税務課長兼会計管理者（塚目弘昭君） 議案第2号 専決処分の報告及び承認について。

地方自治法（昭和22年法律第67号）第179条第1項の規定により次のとおり専決処分したので、同条第3項の規定により報告し、承認を求める。

令和6年4月3日提出。天栄村長、添田勝幸。

記。

専決第2号 天栄村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について。

専決第2号 天栄村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について。

天栄村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について、別紙のとおり専決処分する。

令和6年3月31日、天栄村長、添田勝幸。

天栄村国民健康保険税条例の一部を改正する条例。

天栄村国民健康保険税条例（昭和38年天栄村条例第12号）の一部を次のように改正する。

第2条第3項ただし書中「22万円」を「24万円」に改める。

第23条第1項中「22万円」を「24万円」に改め、同項第2号中「29万円」を「29万5,000円」に改め、同項第3号中「53万5,000円」を「54万5,000円」に改める。

附則。

（施行期日）

第1項 この条例は、令和6年4月1日から施行する。

（適用区分）

第2項 改正後の天栄村国民健康保険税条例の規定は、令和6年度以後の年度分の国民健康保険税について適用し、令和5年度分の国民健康保険税については、なお従前の例による。提案理由をご説明申し上げます。

お手元の資料、19ページをお願いいたします。

今回の改正は、国民健康保険法施行令の一部を改正する政令が令和6年4月1日に施行されることに伴い、国民健康保険税に係る後期高齢者支援金等課税額の課税限度額の引上げ及び減税措置に係る軽減判定所得の基準額の見直しをするため、所要の改正をし、令和6年3月31日に専決処分したものであります。

新旧対照表にてご説明申し上げます。

第2条第3項につきましては、後期高齢者支援金等課税額に係る課税限度額を22万円から24万円に引き上げるものであります。

第23条第1項におきましても、課税限度額の引上げであります。

第2号につきましては、国民健康保険税の軽減判定所得に係る5割軽減基準額の見直しであり、被保険者等1人につき29万円から29万5,000円に見直すものであります。

次のページ、お願いします。

第3号につきましては、2割軽減基準額の見直しであり、被保険者等1人につき53万5,000円から54万5,000円に見直すものであります。

説明は以上でございます。ご審議の上、ご承認を賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（大須賀溪仁君） 説明が終わりましたので、質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 討論なしと認めます。

これをもって討論を終わります。

これから採決を行います。

本件は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、本件は原案のとおり承認されました。

◎議案第3号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大須賀溪仁君） 日程第12、議案第3号 令和6年度一般会計補正予算についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

総務課長、小山富美夫君。

〔参事兼総務課長 小山富美夫君登壇〕

○参事兼総務課長（小山富美夫君） 30ページをお願いいたします。

議案第3号 令和6年度天栄村一般会計補正予算についてご説明申し上げます。

令和6年度天栄村一般会計の補正予算（第1号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

第1条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ270万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ48億1,270万円とする。

令和6年4月3日提出、天栄村長、添田勝幸。

32ページをお願いいたします。

歳入歳出予算につきまして、事項別明細書によりご説明申し上げます。

歳入でございます。

16款国庫支出金、2項国庫補助金、1目総務費国庫補助金、補正額270万円の増。こちらは、令和5年11月2日に閣議決定されましたデフレ完全脱却のための総合経済対策において措置されております物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金270万円を計上しているところでございます。

続きまして、歳出でございます。

2款総務費、2項徴税費、1目税務総務費、補正額270万円の増。こちらは、歳入でご説明申し上げました物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を財源といたしまして、令和6年度分の個人住民税の減税に係る事務費といたしまして、12節委託料に定額減税対応システ

ム改修業務委託料270万円を計上しているところでございます。

説明は以上でございます。ご審議の上、議決を賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（大須賀溪仁君） 説明が終わりましたので、質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 討論なしと認めます。

これをもって討論を終わります。

これから採決を行います。

本件は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、本件は原案のとおり承認されました。

◎日程の追加

○議長（大須賀溪仁君） お諮りいたします。

ここで、議事に追加すべき議案がございますので、この際、これを日程に追加し議題といたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、ただいま申し上げたとおり追加議案を日程に追加し、直ちに議題とすることに決定いたしました。

追加日程を事務局に配付させますので、暫時休議いたします。

（午後 3時23分）

○議長（大須賀溪仁君） 休議前に引き続き再開いたします。

（午後 3時25分）

◎議案第4号の上程、説明、質疑、採決

○議長（大須賀溪仁君） 日程第14、議案第4号 監査委員の選任につき同意を求めることについてを議題といたします。

議案を事務局に朗読させます。

〔参事兼議会事務局長 北嶋さつき君登壇〕

○参事兼議会事務局長（北嶋さつき君） 議案の34ページをお願いいたします。

議案第4号 監査委員の選任につき同意を求めることについて。

本村の監査委員に次の者を選任したいので、地方自治法（昭和22年法律第67号）第196条第1項の規定により、議会の同意を求める。

令和6年4月3日提出。天栄村長、添田勝幸。

記。

住所 天栄村大字湯本字居平27番地。

氏名 小山克彦。

生年月日 昭和33年8月18日生。

○議長（大須賀溪仁君） 本件については、小山克彦君の一身上に関する事件でありますので、地方自治法第117条の規定により、小山克彦君の退席を求めます。

〔7番 小山克彦君退席〕

○議長（大須賀溪仁君） 提案理由の説明を求めます。

村長、添田勝幸君。

〔村長 添田勝幸君登壇〕

○村長（添田勝幸君） 提案理由をご説明申し上げます。

監査委員につきましては、地方自治法第196条第1項の規定により、議員のうちから1名、議会の同意を得て選任することとなっております。このことにより、小山克彦議員を本村の監査委員に選任することについて、議会の同意を求めるものであります。

なお、任期は4年間で、議員の任期によることとなります。

以上、上程いたしますので、ご同意賜りますよう、よろしく申し上げます。

○議長（大須賀溪仁君） これをもって提案理由の説明を終わります。

本件は、質疑、討論を省略して、直ちに採決を行います。

本件について、原案に同意することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、本件は、原案に同意することに決定いたしました。

ここで、小山克彦君の退席を解きます。

〔7番 小山克彦君復席〕

○議長（大須賀溪仁君） ただいま選任に同意されました小山克彦君よりご挨拶をお願いいたします。

7番、小山克彦君。

〔7番 小山克彦君登壇〕

○7番（小山克彦君） このたび、議員の皆様方にご同意をいただき、監査委員に選任いただきました小山克彦でございます。

監査委員の職の重大さを常に認識しながら、代表監査委員とともに村の監査業務に努めてまいりたいと思います。皆様の引き続きのご指導、ご協力をお願いいたしまして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

◎各委員会閉会中の継続審査申出

○議長（大須賀溪仁君） 日程第15 各委員会閉会中の継続審査申出についてを議題といたします。

初めに、議会運営委員会委員長、次に、総務常任委員会委員長、続いて、産業建設常任委員会委員長、議会広報常任委員会委員長の順により申出願います。

議会運営委員会委員長、服部晃君。

〔議会運営委員会委員長 服部 晃君登壇〕

○議会運営委員会委員長（服部 晃君） 令和6年4月3日、天栄村議会議長、大須賀溪仁殿。天栄村議会議会運営委員会委員長、服部晃。

閉会中の継続審査申出書。

本委員会は、所管事務のうち次の事件について、閉会中の継続審査を要するものと決定したので、地方自治法第109条第8項並びに議会会議規則第75条の規定により申し出ます。

記。

1、事件。

（1）本会議の会期日程等議会運営に関する事項の審議及び決定並びに委員会運営に必要な調査研究。

2、理由。

地方自治法第109条第3項に基づく審査及び調査のため。

○議長（大須賀溪仁君） お諮りいたします。

ただいま議会運営委員会委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査に付したいと思っております。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、議会運営委員会委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決定いたしました。

続いて、総務常任委員会委員長からの申出を許します。

総務常任委員会委員長、吉成邦市君。

〔総務常任委員会委員長 吉成邦市君登壇〕

○総務常任委員会委員長（吉成邦市君） 令和6年4月3日、天栄村議会議長、大須賀溪仁殿。
天栄村議会総務常任委員会委員長、吉成邦市。
閉会中の継続審査申出書。

本委員会は、所管事務のうち次の事件について、閉会中の継続審査を要するものと決定したので、地方自治法第109条第8項並びに議会会議規則第75条の規定により申し出ます。

記。

1、事件。

（1）総務常任委員会所管業務に係る、調査研究及び広報広聴活動。

2、理由。

地方自治法第109条第2項に基づく審査及び調査のため。

○議長（大須賀溪仁君） お諮りいたします。

ただいま総務常任委員会委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査に付したいと思いをします。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、総務常任委員会委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決定いたしました。

続いて、産業建設常任委員会委員長からの申出を許します。

産業建設常任委員会委員長、円谷要君。

〔産業建設常任委員会委員長 円谷 要君登壇〕

○産業建設常任委員会委員長（円谷 要君） 令和6年4月3日、天栄村議会議長、大須賀溪仁殿。

天栄村議会産業建設常任委員会委員長、円谷要。

閉会中の継続審査申出書。

本委員会は、所管事務のうち次の事件について、閉会中の継続審査を要するものと決定したので、地方自治法第109条第8項並びに議会会議規則第75条の規定により申し出ます。

記。

1、事件。

(1) 産業建設常任委員会所管業務に係る、調査研究及び広報広聴活動。

2、理由。

地方自治法第109条第2項に基づく審査及び調査のため。

○議長（大須賀溪仁君） お諮りいたします。

ただいま産業建設常任委員会委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査に付したいと思いを。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、産業建設常任委員会委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決定いたしました。

続いて、議会広報常任委員会委員長からの申出を許します。

議会広報常任委員会委員長、馬場吉信君。

〔議会広報常任委員会委員長 馬場吉信君登壇〕

○議会広報常任委員会委員長（馬場吉信君） 令和6年4月3日、天栄村議会議長、大須賀溪仁殿。

天栄村議会議会広報常任委員会委員長、馬場吉信。

閉会中の継続審査申出書。

本委員会は、所管事務のうち次の事件について、閉会中の継続審査を要するものとし、決定したので、地方自治法第109条第8項並びに議会会議規則第75条の規定により申し出ます。記。

1、事件。

(1) 議会広報発行のための取材並びに編集及び調査研究。

理由。

地方自治法第109条第2項に基づく審査及び調査のため。

○議長（大須賀溪仁君） お諮りいたします。

ただいま議会広報常任委員会委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査に付したいと思いを。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大須賀溪仁君） 異議なしと認めます。

よって、議会広報常任委員会委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査に付することに決定いたしました。

◎招集者あいさつ

○議長（大須賀溪仁君） 申し上げます。

令和6年4月3日招集の令和6年第2回天栄村議会臨時会の会議に付された議件は全て終了いたしました。

ここで、招集者であります村長から、閉会に当たり挨拶があります。

村長、添田勝幸君。

〔村長 添田勝幸君登壇〕

○村長（添田勝幸君） 令和6年第2回天栄村議会臨時会の閉会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、上程4議案につきまして、原案どおり議決賜り、厚く御礼申し上げます。また、本臨時会におきまして、正副議長をはじめ、各常任委員会の互選、さらには一部事務組合の議員の選出など、重要案件が滞りなく決定され、新たな村議会の体制が発足いたしましたこと、心からお喜びを申し上げます。今後とも、村と議会が一体となって村民の皆様の負託に応えてまいりたいと考えておりますので、議員の皆様におかれましては、村政に対し、特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、議員各位の一層のご活躍とご健勝をご祈念申し上げ、閉会の挨拶といたします。本日は誠にありがとうございました。

○議長（大須賀溪仁君） これで招集者挨拶を終わります。

◎閉会の宣言

○議長（大須賀溪仁君） 以上で本日の会議を閉じます。

これをもって令和6年第2回天栄村議会臨時会を閉会といたします。

大変ご苦労さまでございました。

（午後 3時40分）

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

令和6年6月13日

議 長 大 須 賀 溪 仁

署 名 議 員 齋 藤 寿 昭

署 名 議 員 石 塚 喜 吉

参 考 资 料

議案等審査結果一覧表

議案番号	件名	議決月日	結果
選挙1号	議長選挙	4月3日	指名推選
2号	副議長選挙	4月3日	指名推選
3号	須賀川地方広域消防組合議会議員選挙	4月3日	指名推選
4号	須賀川地方保健環境組合議会議員選挙	4月3日	指名推選
5号	公立岩瀬病院企業団議会議員補欠選挙	4月3日	指名推選
議案1号	専決処分の報告及び承認について	4月3日	承認
2号	専決処分の報告及び承認について	4月3日	承認
3号	令和6年度天栄村一般会計補正予算について	4月3日	原案可決
4号	監査委員の選任につき同意を求めることについて	4月3日	同意